

勝敗よりも、相撲を楽しみ、 大学生活を楽しむことが大切です。



監督
蒲田重勝

私が専修大学に入学したのは石川県の富来高校在学中、全国相撲大会で3位に入賞し、日本学生相撲連盟会長でもあった森口忠造 元理事長に誘われたのがきっかけでした。私事になりますが、今、三男が相撲部に所属しており、嫁さんも含め一家5人が本学のお世話になっています。私が監督を引き受けたのは、森口理事長にも専修大学にも大変お世話になったので、次の相撲部や相撲界を担う若手を育てることで「恩返し」したいと考えたからです。

現在、部員は11名います。監督として

は、専修大学というカラーや特色を大切にするとともに、一人の大学生として指導しています。たとえば、授業に出ることはもちろん、きちんとした服装をしろと、うるさく言っています。サンダルを履いて大学に行くなんて、もってのほかです。また、大学に行ったら教職員の方々、仲間、友だちにも、しっかりあいさつしなさいと指導しています。大学生であることを認識させる、これを一番、大切にしています。

それと、4年間の大学生活を楽しんでほしい、と思っています。相撲の大会に



参加する場合でも、「楽しい相撲を取ろう」と声をかけます。そして、「楽しい相撲を取るためには、簡単に負けるな。粘って、粘って、粘れ！」。試合が終わり、成績が良くても悪くても、「やあ、きょう一日、いい相撲を取ったな、楽しかったな」という相撲を心がけようと、部員たちには常々、言っています。

最後に、相撲部ではマネージャーを募集しています。相撲は伝統があり、奥が深いスポーツです。関心がある学生さんは、ぜひ連絡してほしいですね。

(談)

がばた しげかつ ●1977 (昭和52) 年、商学部商業学科卒業。1955年生まれ。石川県出身。卒業後、相撲部OB会の幹事長、副会長などを歴任後、2006年、監督に就任、現在に至る。

自分で考え、判断できる……。 選手の成長が監督のやりがいです。



監督
平野恭雄

アメリカンフットボール部は、1963年に創部しました。今では関東の名門チームの一つに、数えられています。現在の部員数は選手52名、マネージャー女子2名、トレーナー女子1名です。部の活動は大学の授業を午後4時30分まで、受けてからです。練習場の夜間照明は近隣に配慮して設置してありませんので、密度の濃い練習を短い時間で、いかにこなしていくかがポイントとなります。

監督として私が大切にしているのは、部活動と学業を両立させることです。そのためには、選手によく言っているのは、

一人ひとりが意識改革を実践し、意識を高めることです。ただ、私が「授業に、ちゃんと出なさい」と選手に指導しても、実際に出席しているかどうか、そこまではチェックできません。ですから、個人の意識改革ができるか、これが非常に重要になってきます。

また、時代の変化、環境の変化も、さまざまな面で現れています。私が監督になった頃は関西からの学生がかなりいて、大学の近くに下宿というケースも多かったですね。最近では、首都圏近郊に自宅があり、そこから通学する学生の割合が



撮影：松林 健

増えています。学業の成績という点から見ると、通学時間の長い学生のほうが、成績が良い場合もあります。スポーツに戦略・戦術が不可欠ですが、学業にも戦略・戦術があり、単に長時間やればいいというものではない、という点では共通していると思います。

選手が個人レベルでの意識改革を成し遂げ、自分で考え、判断することができるようになっていく……。監督としてのやりがいは、4年間で選手たちが大きく成長していくのを見ることができ点ですね。

(談)

ひらの やすお ●1969 (昭和44) 年、商学部商業学科。1946年生まれ。神奈川県出身。1994年より監督。モットーは「大胆かつ繊細に」。また、川崎市アメリカンフットボール協会理事長として、啓蒙・普及活動を長年続ける。